

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371100666		
法人名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	有限会社ほほえみグループホーム日陽 2階		
所在地	愛知県名古屋市長区六軒家1022番地		
自己評価作成日	令和4年10月7日	評価結果市町村受理日	令和5年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2371100666-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2371100666-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和5年2月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設19年目を迎え、地域の方々に施設の存在を認識していただけるようになってきた。職員の離職も少なく、職員同士のみならず、地域の方々にも顔見知りとなるよう施設が存在できるようになってきている。共用型デイサービスを開設し、認知症利用者の在宅支援にも力を入れている。また、施設の周りは田んぼや畑が広がる環境で、利用者の皆様も、散歩などで景色を楽しみながら、生活することが出来ている。玄関先や屋上に上がるだけでも季節を感じ、快適に暮らすことを目標としている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」  
 ②軽減要件確認票  
 ③目標達成計画

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念を念頭に日々介護にあたるよう努めている。</li> <li>・理念を時々見て確認している。</li> <li>・理念はあるが今は実践できていない。</li> </ul>		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナで外出できず関わりを持つのが難しい。</li> <li>・ゴミ出しの時に地域の人に挨拶をしている。</li> <li>・地域行事に参加していたが今はコロナ禍でできていない。</li> </ul>		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症について相談がある場合は経験を踏まえ相談に応じている。</li> <li>・今はコロナ禍で地域に人とかかわることが出来ていない。</li> </ul>		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議での意見や話し合いの内容を職員会議で伝えてもらい、活かしている。</li> <li>・介護職員は直接関わらないのでわからない。</li> <li>・コロナ禍で中止されていたが、開催された。</li> </ul>		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者やケアマネが担当者と協力して取り組んでいる。</li> </ul>		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修を行っている。・拘束していない。</li> <li>・会議にて身体拘束をしないケアについて話し合いをしている。</li> <li>・オンライン研修により知識を増やして実践している。</li> </ul>		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン研修を受講しスタッフ内で情報交換をし、防止に努めている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・実践に関わる事はないが会社としては出来ていると思う。 ・利用者が不安な事や悩み事があれば代表者やケアマネに伝え、身元保証人等に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・家族の方には十分に説明を行い、不安や疑問が生じた場合も納得していただけるよう説明をする。 ・契約に関することはわからない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・利用者の意見は日々耳を傾けるようにしている。 ・コロナの影響で家族の会議は出来ていないが家族からの意見等は常に聞ける体制にはなっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・年度初めに面接を設けて意見や要望を聞いて反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・代表者は一人一人に気を配り、就業環境・条件の整備に努めてくれていると思います。 ・給与水準は低い但有給が取れるのはよい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・研修を受ける機会があり、資格を取ることを推奨している。 ・オンラインで年2回の研修を受講、知識や技術の向上に役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・今はコロナで研修に参加することもないし交流する場もない。 ・コロナ禍で研修に行っても会話禁止の処置が取られていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・利用者が早く施設に馴染めるよう情報をスタッフ内で共有し関係づくりに努めている。 ・入所して間もない時は不安なので特に気を付けて会話をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・介護スタッフは家族と面識がない為初期段階では難しい。 ・代表者やケアマネから利用者と家族の関係を聞き、要望等対応の仕方を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・管理者やケアマネから情報を得て会議で支援方法をみんなで考えている。 ・認知症である本人からはお話が聞けない場合もあるが、家族や本人の想いを受け止め、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・利用者様ができる事(得意な事)をお手伝いし、 ・本人のできる事はやっていたら支援し、役割を持ってもらい他の利用者とも居心地よく過ごしてもらえるような関係を築く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・コロナで面会ができないので、日ごろの生活等を新聞で伝えたり、テレビ電話で話していただいたりしてつながりを持ってもらえるようにしている。 ・ケアマネ、管理者を通して家族の要望を聞く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・コロナで面会禁止となっているが家族の事や出身地の事などを話題にして思い出してもらったり、また会いに行けるよう体力維持を心掛けてもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・職員間で席の配置、共同作業の組み合わせに気を配って穏やかな関わりができるように考えている。 ・トランプ、ジェンガ等遊びながら会話の機会を提供し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・退所された後、どうなったかわからない利用者が増えた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人とコミュニケーションを取って、思いや希望を話しやすい関係性に努めそれに沿えるようスタッフで話し合っている。 ・担当スタッフがQOL向上の目標を作り提案している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・利用者の性格や今までの暮らしを把握しているつもりだが生い立ちを理解しなくてはいけないと思う。 ・利用者本人からも聞きだすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・介護記録や受診記録に目を通し、スタッフ内での情報共有に努めている。 ・毎日利用者をしっかり観察して異変がないか観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・ミーティングなどで現状の課題やケアの方法の意見を出し合い、ケアマネや代表者から家族に相談してもらいながら目標を持って計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・事実をありのまま記録する様に努めている。 ・個人記録は読んでわかりやすい記入を心掛けている。 ・介護記録やヒヤリハットに記入し情報を共有してミーティングで利用者一人一人の問題点を取り上げ実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・できていない。 ・本人の状況やニーズをくみ取れるよう利用者との関係に努め、そのニーズに応えられるよう意見を出し合い、利用者一人一人に合った支援やサービスができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・初詣に近くの神社に行ったり、花見に行った。畑があり野菜の収穫をやってもらったり、散歩に出て季節を感じてもらえるよう努めている。 ・コロナの為困難である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・内科・歯科・皮膚科・精神科は定期的に往診がある。本人の希望や必要があれば専門科を受診できる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・日常の気づきやヒヤリハットを見て、小さな異変のうちに看護師に伝えている。 ・施設内看護師に相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・関わっていないのでわからない。 ・利用者が入院した際には病院関係者と情報交換や相談に努めている。 ・職員は直接病院関係者とは関わらないが入院に至るまでの症状を記録し情報を渡せる様心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・本人と家族の意に添えるようにできるだけの支援に取り組んでいる。 ・職員間で情報を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・訓練したことを忘れてしまうので定期的に覚えられる機会があると良い。自分でも自信がない。 ・救命救急講習や内部研修を受けて備えているがいざとなったときに出来るか不安。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・避難訓練、火災消火訓練に参加している。 ・避難訓練を利用者と共に行い避難方法や経路を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分にできていない。声掛けやノックなしで居室やトイレの戸を開けてしまう。</li> <li>・性格を理解して言葉を選んで伝え方にも気を付けているが難しさを感じている。</li> <li>・自尊心を傷つけないよう声掛けや言葉遣いに注意している。</li> </ul>		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の話を聞き想いや希望を自己決定できるよう声掛けをしている。</li> <li>・利用者とコミュニケーションを取り希望を聞き出して実現できるよう試みる。普段の役割やレクなども押し付けにならないよう本人の意見を尊重している。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴時間や過ごす場所などできる範囲で希望に添えるように努めている。</li> <li>・規則正しい生活を支援して、スタッフのペースでの支援になる場合が多いと感じる。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみが整うよう支援している。</li> <li>・利用者を観察し、好みの色やスタイルを探っている。</li> <li>・訪問理美容等を利用しているが「おしゃれ」は誰もできていない。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者一人一人の食事の好みや持病や咀嚼に合わせて味付けや盛り付け方を考えている。</li> <li>・台拭き、食器拭きなどやれる方に役割を決めてやってもらっている。</li> </ul>		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事量や水分量は毎日チェックしている。</li> <li>・一人一人に合った量や柔らかさ、味付けを考えて提供している。</li> <li>・美味しく食べられるようにポジティブな声掛けを行っている。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後口腔ケアを行い見守りや介助をしながら清潔保持に努めている。</li> <li>・毎日義歯の消毒をしている。</li> <li>・必要な人には毎週歯科医に診てもらっている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分を損ねない声掛けで気持ちよくトイレへ行ってもらう様心掛けている。</li> <li>・排泄チェック表を確認し、利用者の行動を見ながら声を掛け、支援している。</li> </ul>		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排便の回数を把握し水分摂取量に注意したり乳製品を摂ってもらったり適度な運動をしてもらっている。</li> <li>・下剤に頼っている部分もある。</li> <li>・運動、飲食物の工夫をしている。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曜日や時間は施設、職員の都合によるところが大きいが入浴が楽しい時間であるように日々努めている。</li> <li>・入浴を面倒に思う利用者には楽しめるような声掛け、工夫をしている。</li> </ul>		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中はなるべくリビングで過ごしてもらい、日の光を浴びたり生活のリズムを身に付けて夜は熟睡できるよう支援している。</li> <li>・休憩したい時や体調に合わせて居室での臥床を促している。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・往診の記録を確認し処方箋に目を通して内容や目的の把握に努めている。</li> <li>・1日ずつ内服薬を管理し、症状の変化があれば看護職や医師と相談している。</li> <li>・間違いがないよう支援している。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で外出ができないため、レクを頑張っているがどうしてもやるべき通常業務に追われてしまう。</li> <li>・パズルや間違い探しなど好きなものを把握して楽しんでもらっている。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で外食はできないので希望を把握し食べたいものをご提供できるようにしている。</li> <li>・コロナ禍で外出ができないので屋上や畑などで気分転換している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・お金を所持している人はいるがコロナの事も有り一緒に買い物に行くなどは出来ていない。 ・利用者の購入したいものを尋ねて了承を得て購入。 お金は主に事務所で管理。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・携帯電話を所持している利用者は居室にて自由に電話をしてもらっている。 ・手紙を書きたい、出したいという希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・落ち着く空間づくり、季節感のある飾り物を配置、室温、換気、明るさに注意を払っている。 ・居心地よく過ごしていただけるよう清潔に心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・人間関係などに配慮工夫している。 ・相性の良い利用者を同じテーブルに配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・使い慣れたものを持ち込んでいただけるようご家族にお話ししている。 ・思い出のあるものは自由に居室においてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・歩行器や車椅子が通りやすい空間を作っている。 ・利用者ご本人の「できること」「わかること」を把握し、ご自分でできる事はやっていたり自立した生活が送れるよう努めている。		